

掛け替えのない2年間

第20期生 中村 友亮

私の小野ゼミ現役生としての2年間は、今までの人生の中で最も人に恵まれていたと思う。今振り返ってみると、私が最終的に小野ゼミを志望した一番の理由は、先輩方の人の良さであった。入ゼミを志望する2年生に真摯に向き合ってください、他のどのゼミよりも活動に全力で取り組んでいる小野ゼミの先輩方は、当時の私に衝撃を与えた。先輩方のような人間になりたいと思い、小野ゼミの門戸をたたいたのを、今でも鮮明に覚えている。そんな魅力的な先輩方に感化されて、自分と同じく小野ゼミを志望した同期生もまた、個性豊かで魅力的な人たちであった。

今となっては同期生の様々な一面を知っているが、入ゼミ当初の私は、人付き合いが苦手であった。人付き合いをするうえでの面倒ごとは極力避けたいと考えているため、他人と対立したりすることを避け、あまり自我を出さずに、周りに合わせることでその場をテキトーに乗り切ってきた怠惰な人間である。しかし、このような私の人付き合いに対する怠惰な姿勢は、小野ゼミの活動では全く通用しなかった。小野ゼミでの活動は常に自分の意見が求められ、議論の際にも自分の考えを正確に伝える必要があった。また、解決することのない課題や、迫りくる締め切りに苛まれ、時々感情を露にすることもあった。本来1ヶ月あるビジネスコンテスト本選考の準備期間が、私の不手際により数日しか猶予がなかったことや、3ゼミ中間発表の数日前に三田祭論文の仮説変更を余儀なくされたことや、三田祭論文の締め切り直前にほとんど寝ずに論文を執筆したことなど、直面した難題は数えるときりがない。しかし、様々な窮地を乗り越えてきたからこそ、同期生の個性や魅力を真に深く知ることができた。人付き合いが苦手な私でも、小野ゼミという環境に身を置くことで、小野先生や先輩方、そして同期生と深く関わり、微弱ながらも克服することができたと思う。

思ってみれば、小野ゼミ現役生の2年間は、最も人に恵まれていると感じたのは、今までで最も人と向き合い、同じ時間を共に過ごしてきたからだと思う。このようなゼミ生が一丸となって活動に取り組むことができる環境を与えてくれた小野先生には、感謝してもしきれない。小野ゼミが、小野先生、そして歴代の先輩方が築き上げてくださった、ゼミ活動に全力で取り組むことのできる環境であったからこそ、良き同期生とめぐり合うことができ、自らの成長にもつながったと思う。全力で取り組むがゆえに、様々な苦難に苛まれ、挫折することもあったが、小野先生をはじめとする、皆様の支えがあったからこそ、乗り越えることができた。とりとめのない文章になってしまったが、最後に皆さまへの感謝を述べて終わろうと思う。小野先生、先輩方、同期生、そして第21期生の皆さま、2年間という短い間でしたが、皆さまのおかげで私にとっては掛け替えのない2年間になりました。本当にありがとうございました。